２０１１年（平成２３年）７月２５日　月曜日

デーリー東北新聞　掲載

光星盤石コールド

自球 投打がっちり 決勝へ弾み

光星が危なげない試合運び で8年ぶりの頂点に王手をかけた。投手陣は無失策のバックに支えられ、2安打零封。打線は主砲田村龍弘に今大会初の本塁打が出るなど、9安打10得点。決勝に弾みをつける鮮やかな六回コールド勝ちだった。「あと1戦、自分たちの野球をするだけ」―。川上竜平主将は気を引き締めた。

先発の川上主将は、立ち上がりから伸びのある直球を武器に気迫満点のピッチングを展開し、初回を難なく三者凡退で切り抜けた。四回に初安打を許すと、マウンドで悔しげな表情。「無安打は意識しましたが…。それより、走者を出した後にしっかり打ち取れた」と納得のマウンドだった。女房役の松本憲信も「ここ最近で一番球が走っていた」と持ち上げた。

守りが引き締まると、いいリズムでの攻撃につながる。初回から集中打で4点を先制し、強力打線が本領を発揮した。全9安打のうち長打は5本と、破壊力の高さをあらためて印象付けた。公式戦8本目の本塁打を放った田村は「狙っていなかったけれど、思ったより飛んだ」と、ひょうひょうと話した。

決勝は、2年前の夏、下沖勇樹投手（現ソフトバンク）を擁しながら、準々決勝で敗れた因縁の相手・野辺地西。川上主将は「当時は1年生で、泣き崩れる3年生を見た。先輩の悔しさを晴らすためにも、必ず勝つ」と高らかに宣言した。

（出川しのぶ）

【木造―光星】気迫十分のピッチングで5回を零封した光星の先発川上竜平

【木造―光星】6回光星2死1、二塁、川崎貴之が右越え2点二塁打を放ち、コールド勝ちを決める＝青森市営

光木
星造
4 0 0 2 2 0 0
2×0
10 0

（六回コールド）

（木）平澤、對馬―大柳

（光）川上、秋田―松本

▽本塁打　田村（光）

▽三塁打　北條（光）▽二塁打　澤、宮下、川崎（光）

▽暴投　平澤（木）

▽試合時間　1時間39分

（球審＝菊池、塁審＝西村、関、木下正）

【評】光星が投打で木造を圧倒した。光星は初回1死三塁から、川上の左前適時打や北條の中越え三塁打、宮下の右中間二塁打で3点を加え、主導権を握った。6点リードの四回には、2死三塁から、田村が中堅バックスクリーンに今大会初本塁打を放ち、2点を追加。投手陣は、先発川上、秋田のリレーで2安打、無四死球で零封した。

木造は2度走者を出したが、二塁を踏めなかった。

光　星10―0木　造

【木　造】

	打	安	点	振	球
⑨ 見	2	0	0	0	0
⑥ 光	3	0	0	0	0
⑦ 伏	1	0	0	0	0
⑦ 須	2	0	0	0	0
⑥ 荒	2	0	0	0	0
⑧ 角	1	0	0	0	0
② 高	2	0	0	0	0
② 大	2	0	0	0	0
③ 福	0	0	0	0	0
① 士	0	0	0	0	0
④ 平	0	0	0	0	0
懐 對	0	0	0	0	0
盗 伏	0	0	0	0	0
失 柴	2	0	2	0	2
併	0	2	0	3	0

【光　星】

	打	安	点	振	球
⑨ 澤	3	1	0	0	1
⑦ 天	3	0	0	1	0
7 久	3	1	0	0	1
8 和	4	0	1	1	0
⑪ 田	3	1	3	0	1
⑥ 上	2	2	2	1	2
⑥ 村	2	2	2	0	6
⑧ 悟	1	1	0	0	0
⑧ 下	3	2	1	0	0
⑤ 田	3	2	1	0	0
⑤ 中	3	0	1	0	0
⑤ 間	1	1	0	0	0
⑤ 崎	1	1	0	0	0
⑤ 貴	1	1	0	0	0
⑤ 本	1	0	0	0	0
⑤ 本	1	0	0	0	0
⑤ 本	1	0	0	0	0
捕	3	0	0	0	0
盗	1	0	0	0	0
失	2	0	0	7	2
併	7	9	1	0	1
柴	2	7	9	1	0	1	6

投手	打	安	振	球	失
川上	28	8	0	3	2
秋田	1⅔	1	1	0	0
對馬	4	1	2	3	0
平澤	4	2	1	3	0
大柳	1	1	0	0	0

昨夏以来の1本

○…光星は、五回に代走出場後、二塁の守備についた川崎貴之（大館中出）が、六回2死1、二塁で打席に立ち、コールド勝ちを決める右越え二塁打を放った。昨夏大会以来の公式戦でのヒットとなった。

この日は、五回に代走出場。二盗を狙ったところ、相手捕手の送球がそれたのが幸いして辛くも成功した。川崎は「スタートの反応が遅れてしまって…」と頭をかいた。

打席では、今春のセンバツで代打出場し三邪飛、春季地区大会は決勝で先発出場し無安打、今大会も4回戦で代打出場し二飛と結果を出せていなかった。この日はやっと〝1本〟が出たこともあって「本当にうれしい」と笑顔を見せていた。

二枚看板ねぎらう

○…木造のマウンドは平澤大地が先発、對馬央人が2番手で光星の強力打線に立ち向かったが、大量10失点で無念のコールド負けを喫した。初回に4失点だった平澤は「先頭打者に打たれた後に切り替えられなかった」、五回から継投した對馬は「スライダー系が甘く入ったところを打たれた」と、ともに無念さをにじませた。

平山智順監督は「直球の平澤と変化球の對馬。チームは秋も春も県大会に出られなかったが、よくここまで頑張ってくれた」と4強入りの原動力2人をねぎらっていた。

光星・田村龍弘三塁手（今大会初本塁打）最近は不調だったが、23日朝に体の軸を意識した練習をしてから、タイミングが合ってきた。

木造・角田直登主将（完敗も、6年ぶりの4強）光星や青森山田といった強豪の仲間入りができた。後輩には来年、必ずリベンジして甲子園に行ってほしい。

デーリー東北新聞社提供